

情報システム科

卒業認定の方針（ディプロマ・ポリシー：DP）

■ 育成人材像

- ① ICT 技術の共通の基礎となる、ハードウェア・ソフトウェア・システム開発・ネットワーク・セキュリティ・データベース・AI などの情報処理に関する知識を身に付け、適切に応用、活用することができる。
- ② 各種プログラミング言語の知識をもとに、仕様書に従いプログラムの作成及び、プログラム単体のテストを実施することができる。
- ③ 顧客の要求内容や問題点を把握し、改善や解決が実現できるシステムの仕様書を作成できる。
- ④ システム開発におけるプロジェクトの状況を把握し進捗を管理できる。
- ⑤ 顧客の業務を把握し、適切なハードウェア・ソフトウェアの提案、サービスの説明ができる。

■ 身に付ける能力

- ① プログラム／データの構造を理解し、リファレンスをもとにプログラミングを行うことができる。
- ② システム開発手法、ドキュメントの表記法や技法の知識を身に付け、仕様書が作成できる。
- ③ Web 環境でのアプリケーション開発の知識を身に付け、ユーザの利便性を意識した UI を作成できる。
- ④ 仮想化環境に関する知識を有し、使用目的に応じたサーバの設計及び構築を行うことができる。

教育課程編成・実施の方針（カリキュラム・ポリシー：CP）

■ 教育課程編成の方針

- ① 豊かな教養と社会常識を身に付けるために、「就職対策」を各年次に配置する。
- ② 1 年次は、IT・AI 分野（ICT 業界）における基礎的知識、基本情報技術者試験や情報検定の合格を目指すための専門科目を配置する。
- ③ 1 年次後期は、IT・AI 分野（ICT 業界）の基礎知識を身につけるための専門科目として、プレゼンテーション、プログラミング言語（Java）を配置する。
- ④ 2 年次は、1 年次で学習した知識を基に、さらに深い知識の習得と応用力を身に付けるため、プログラミング言語（Java,C#,PHP）、データベース管理、サーバ管理技術、システム科開発の知識と技術を習得する専門科目を配置する。また、チームで協力してシステム企画・システム構築・スケジュール管理・プレゼンテーションを行う「卒業研究」を配置する。
- ⑤ 2 年次以降、ICT に関わる広範な知識を習得するため、情報処理試験の受験区分ごとに出題範囲を学習し、問題演習を行う講義科目を配置する。
- ⑥ 2 年後期に企業と連携した実習科目を配置する。

■ 授業実施の方針

- ① キャリア教育科目である「就職対策」はオンラインコンテンツを利用した一般常識の学修、履歴書・エントリーシートの記述指導、面接訓練等の実践トレーニングとする。

- ② IT・AI分野（ICT業界）における知識修得を目的とした科目は講義形式で行うことを基本とし、知識の定着のための演習は小テストやレポート形式で行う。
- ③ コンピュータプログラミングの技能を身に付けるための専門科目は、実習形式で行う。年間170時間以上の実習時間を通し、ICT業界で即戦力として活躍できる実践力を身に付ける
- ④ 実践力を身に付けるために、システム開発に関する一連の流れを知り、顧客に対して適切な提案を行うことができるようになることを目標に、企業連携実習を実施する。

■ 学修成果評価の方針

- ① 講義科目は、定期試験、小テスト、レポート、授業に取り組む姿勢をもとに総合的に評価する。各科目の評価方法はシラバスに記載する。
- ② 実習科目は、課題の提出状況、作品の完成度、授業に取り組む姿勢をもとに総合的に評価する。各科目の評価方法はシラバスに記載する。